

2023 年度  
自己評価報告書

2024 年 5 月 31 日

姫路情報システム専門学校

## 目次

I 学校の現況	P. 3
II 評価の基本方針	P. 4
III 重点目標	P. 5
IV 評価項目の達成及び取り組み	P. 5
(1) 教育理念・目標・育成人材像	P. 5
(2) 学校運営	P. 6
(3) 教育活動	P. 7
(4) 学修成果	P. 8
(5) 学生支援	P. 9
(6) 学校設備	P. 9
(7) 学生の受け入れ募集	P. 10
(8) 財務	P. 10
(9) 法令等の遵守	P. 11
V 今後の課題、取り組み	P. 11

## I 学校の現況

### (1) 学校名

姫路情報システム専門学校

### (2) 所在地

〒670-0965

兵庫県姫路市東延末二丁目 25 番地

### (3) 沿革

昭和 62 年 10 月 校舎竣工

昭和 62 年 10 月 学校法人認可、専修学校設置認可

昭和 63 年 4 月 第 1 期生入学

平成 27 年 9 月 校舎改築

令和 6 年 3 月 第 36 期生卒業

令和 6 年 4 月 第 37 期生入学

### (4) 学科の構成

課程名	学科名	コース名	修業年限	入学定員	総定員
工業 専門課程	情報システム科	SE プログラマー	2 年	75	150
		CG クリエーター	2 年	30	60
		IT スペシャリスト	2 年	25	50
		Web プロフェッショナル	2 年	20	40
	情報経理科	情報経理	2 年	25	50
		医療ビジネス	2 年	25	50

### (5) 学生数（令和 5 年 5 月 1 日現在）

	情報システム科	情報経理科	合計
1 年生	141	51	192
2 年生	117	40	157
計	258	91	349

## (6) 教職員数

校長 岡野敦

教員13名、講師7名、校医1名、カウンセラー1名、事務職員3名

## (7) 建学の精神

姫路市に情報系の学科を有する専門学校を設立することは、播磨地域の高校生に地元で高度な専門教育を受ける機会を提供することになる。そして、地元学校への進学は地元での就職に繋がるわけであり、このことは今日の安定成長社会において、進学・就職の地元指向のもと、高校卒業者に大きな便益となり、高校卒業者の地元定着を促進するものである。さらにゆとりのある校舎で、最新の実習設備で実務教育できる環境は、地域の文化水準を押し上げ、地域社会の発展に寄与するものであると信ずる。

## (8) 教育方針

教育方針としては「スペシャリストの育成」と「豊かな人間形成」を掲げる。上記建学の精神に則り、社会の要請、特に地元企業の求める人材の育成を目的とし、即戦力として活躍できる専門的な技術、知識を備えた「スペシャリスト」の育成を図る。また、社会的常識と基本マナーを備え、協調性のある、明るく健康で創造性豊かな社会人となる人材の育成を図る。

## Ⅱ 評価の基本方針

### (1) 評価の目的

・地域に根差した実践的な職業教育を行う機関として、関係業界、地元経済界のニーズを踏まえ、どのような理念、目的、育成人材などを掲げるべきか客観的に再評価する。また、質の高い職業教育を受けることのできる環境を目指し、その改善のために行なう。

### (2) 評価の方法

- ・定期的な職員会議にて評価する。
- ・設定した教育目標や計画に照らし、具体的かつ客観的なデータに基づき評価する。
- ・アンケートを活用する。
- ・職員会議において、分析及び課題の洗い出しを行なう。
- ・次年度に向けた重点目標を設定し、全教職員共通認識のもとで、教務、就職、広報の分掌単位で改善に取り組む。

### (3) 評価の公表

- ・自己評価報告書には、目標達成状態及び取り組みの適切さを簡潔かつ明瞭に記載する。
- ・学生、教職員の個人情報保護や安全確保に留意して、報告書に記載するものと非公開とするものを区別する。
- ・学校評価の結果はホームページにて公開する。

## Ⅲ 今期重点目標

### (1) 今期の重点目標

本校の男女比は、SE プログラマーコースについては約8割が男性、医療ビジネスコースについてはほぼ全員が女性である。これは本校だけではなく、業界単位で、SE 業界は男性が多く、医療事務業界は女性が多いという構造である。そのため、業界内においても SE 業界では女性が不足し、医療事務業界では男性が不足している。そのような構造上、SE 業界では女性の、医療事務業界では男性の需要がある。

SDGs 5 番目のゴールにジェンダー平等が掲げられているように、本校も SE 業界を志望する女性、医療事務業界を志望する男性を支援することにより、この播磨地域のジェンダー平等に資することを今期の重点目標とする。

### (2) 取組状況・成果

学生募集において、SE プログラマーコース、IT スペシャリストコースなどの情報系コースに女性を入れるべく、広報用パンフレットに女性の写真を多く使った。また、ガイダンスの際、女子校などにも積極的に SE プログラマーコースの広報をした。

医療事務分野についても同じように、男子高校生に男性が不足している医療事務業界で働くことのメリットを訴え、積極的に広報した。

その結果 2024 年 4 月入学者では、SE プログラマーコース 45 名の内 5 名が女性となり、女性比率は 11.1%と昨年の 5.1%よりも向上した。しかし、医療ビジネスコースに関しては男性を 1 人も確保することができず、課題が残る結果となった。

## Ⅳ 評価項目の達成及び取り組み

### (1) 教育理念・目標・育成人材像

評価項目	評価点
・学校の理念、目的、育成人材像は定められているか（専門分野の特性の明確化）	3.5

・学校の理念・目的の下に特色ある職業教育が行われているか	3.5
・社会のニーズ等を踏まえた学校の将来構想を抱いているか	3.5
・学校の理念、目的、育成人材像、特色などが学生、親、関係企業などに周知されているか	3.0
・各学科の教育目標、育成人材像は業界のニーズに合わせて方向づけられているか	3.5

※評価点については、4が適切、1が不適切の4段階評価の平均点

① 課題

- ・建学の精神、教育理念について、学校内部では浸透しつつあるものが、高校、企業など学校外部にはあまり伝わっていない。
- ・地域的なニーズをカリキュラムに取り入れることはできているが、広く社会的なニーズに沿った構想を抱けていない。

② 今後の方策

- ・学校として打ち出すべき教育理念、教育方針を内部で共有し、それを高校訪問、企業面談などの際に外部にも伝えていく。
- ・社会的ニーズを踏まえ、大局的な将来構想を抱き、カリキュラム、卒業要件などに反映させていく。

③ 特記事項

- ・教科ごとにシラバスを作成し、その目的、意義を明確化させている。
- ・学生生活の手引きを電子化することで、学校の理念、教育方針を学生自身が再確認しやすい環境を整えた。

(2) 学校運営

評価項目	評価点
・目的等に沿った運営方針が策定されているか	2.9
・運営方針に沿った事業計画が策定されているか	2.9
・運営組織や意思決定は規則等において明確化され、有効に機能しているか	2.8
・人事、給与に関する規程等は整備されているか	2.9
・教務、財務等の組織整備など意思決定システムは整備されているか	2.7
・業界や地域社会等に対するコンプライアンス体制が整備されているか	2.8
・教育活動等に関する情報公開が適切になされているか	2.9

・情報システム化等による業務の効率化が図られているか	2.6
----------------------------	-----

※評価点については、4が適切、1が不適切の4段階評価の平均点

① 課題

- ・組織の運営方針が職員に伝わらず、組織としての意思決定が職員にとって納得のいくものではない場合がある。
- ・情報システム化による業務の効率化は進んでいるものの、依然として紙ベースでの手続きが残存しており、改善の余地がある。

② 今後の方策

- ・運営方針、事業計画を明確化し、職員まで浸透させることで、各職員が意思決定する際にそれらを意思決定の要素とする。
- ・情報システム化を進め更に業務を効率化させるため、各職員からの意見を吸い上げ改善に努めていく。

③ 特記事項

- ・職務規程や給与規定については、新人研修に組み込まれており、新しく入職した教職員についても定着するような仕組みになっている。

(3) 教育活動

評価項目	評価点
・教育理念等に沿ったカリキュラムの編成、実施されているか	3.5
・修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか	3.4
・キャリア教育、実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫、開発などが行われているか	3.4
・関連分野の企業との連携により、カリキュラムの作成・見直し等が行われているか	2.7
・関連分野における実践的な職業教育（インターンシップ、実技・実習等）が行われているか	2.9
・授業評価の実施、評価体制はあるか	2.9
・成績評価・単位認定、進級・卒業判定の基準は明確になっているか	3.9
・資格取得等に関する指導体制、カリキュラムの中での位置づけはあるか	3.6

・人材育成目標の達成に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか	2.6
・優れた教員（本務・兼務含む）を確保する等のマネジメントが行われているか	2.3
・関連分野における先端的な知識・技能等を修得するための研修や教員の指導力育成など資質向上のための研修が行われているか	2.4

※評価点については、4が適切、1が不適切の4段階評価の平均点

#### ① 課題

- ・企業と連携したインターンや実習などの機会が少ない。
- ・新たな教員獲得に向けたマネジメントができておらず、退職、休職した教員の後任を採用することができていない。
- ・教員数が減少したことにより、各教員の持つ授業数が増え、研修など自己研鑽の時間を取ることができていない。

#### ② 今後の方策

- ・就職課を通じ、地域の企業と連携を深め、インターンや実習などのカリキュラムを増やしていく。
- ・教員の確保だけにとどまらない職場環境の改善を目指し、研修制度や勉強会などを充実させていく。

#### ③ 特記事項

- ・資格取得が成績評価の要件になっている授業もあり、学生の資格取得支援については学校として取り組んでいる。
- ・成績評価についても明確な基準を設けたシステムを構築しており、学生間の不平等感をなくし、平等に評価できる体制を築けている。

### (4) 学修成果

評価項目	評価点
・就職率の向上が図られているか	3.5
・資格取得率の向上が図られているか	3.5
・退学率の低減が図られているか	3.1
・卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか	2.9

※評価点については、4が適切、1が不適切の4段階評価の平均点

#### ① 課題

- ・不登校傾向にある学生が増加傾向にあり、その学生たちのケアや退学を止め



る施策が十分に機能していない。

- ・卒業後の活躍、評価の把握については、普段から取引のある企業からのヒアリングなどにとどまり、幅広くできていない。

② 今後の方策

- ・不登校の学生に対する事例などを共有し、今後の学生指導に活かしていくことで退学率を低減させていく。
- ・卒業後にアンケートなどを送付し、卒業生の動向を集計する。

③ 特記事項

- ・特段無し。

(5) 学生支援

評価項目	評価点
・就職に関する支援体制は整備されているか	3.2
・学生相談に関する体制は整備されているか	3.1
・学生に対する経済的な支援体制はあるか	3.1
・学生の健康管理を担う支援体制はあるか	2.5
・課外活動に対する支援体制はあるか	2.5
・学生の生活環境への支援は行われているか	2.7
・親等と適切に連携しているか	3.4
・卒業生への支援体制はあるか	3.0
・高校との連携によるキャリア教育・職業教育の取組が行われているか	2.9

※評価点については、4が適切、1が不適切の4段階評価の平均点

① 課題

- ・学業を重んじる校風のため、学外、課外活動への支援体制は充実していない。
- ・卒業生について、卒業後は連絡を取っておらず、支援体制があるとは言い難い。

② 今後の方策

- ・サークル活動などを活発化させることにより、課外活動の充実を図る。
- ・卒業後の支援窓口を設け、卒業後も就職、キャリアサポートの支援が受けられるように整備する。

③ 特記事項

- ・特段無し。

(6) 学校設備

評価項目	評価点
・施設、設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか	3.3
・防災に対する体制は整備されているか	3.4

※評価点については、4が適切、1が不適切の4段階評価の平均点

① 課題

・1階には防犯カメラが設置されているが、各階には設置されておらず、有事の際に教員が近くにいないと異変に気付くことができない。

② 今後の方策

・各階のエレベーター前などに防犯カメラを設置する。

③ 特記事項

・防災、防犯訓練については2カ月に1回を目安に行い、常日頃から防災、防犯意識を醸成するように心がけている。

(7) 学生の受け入れ募集

評価項目	評価点
・高等学校等接続する機関に対する情報提供等の取組が行われているか	3.3
・学生募集活動は適正に行われているか	3.6
・学生募集活動において、資格取得、就職状況等の情報は正確に伝えられているか	3.7
・学生納付金は妥当なものとなっているか	3.4

※評価点については、4が適切、1が不適切の4段階評価の平均点

① 課題

・高等学校等に発信する情報としては、本校広報としての情報(就職率、資格取得率等)が中心であり、建学の精神にあるところの「地域の発展に寄与する」情報提供はできていない。

② 今後の方策

・地域の発展に資するような情報提供ができるように、最新技術の動向や、業界の動向を共有する勉強会などを開き、校内の知識水準向上を目指す。

③ 特記事項

・学生の資格取得、就職状況については、教務課、就職課が随時情報を更新し

ており、去年の実績だけでなく、最新の実績も反映することができている。

・毎年、高校教員向けセミナーを行い、最新の技術を業務に応用する術などの情報提供を行っている。

(8) 財務

評価項目	評価点
・中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか	3.9
・予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか	3.9
・財務について会計監査が適正に行われているか	3.8
・財務情報公開の体制整備はできているか	2.9

※評価点については、4が適切、1が不適切の4段階評価の平均点

① 課題

・財務書類の公開に関して、請求があった場合に閲覧できる状態にはあったが、広く社会に公表されている状態にない。

② 今後の方策

・来期からホームページ上で公表すべく、ホームページの整備、書類の整備を進める。

③ 特記事項

・特段無し。

(9) 法令等の遵守

評価項目	評価点
・法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか	3.3
・個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか	3.5
・自己評価の実施と問題点の改善を行っているか	3.1
・自己評価結果を公開しているか	3.1

※評価点については、4が適切、1が不適切の4段階評価の平均点

① 課題

・本年度まで自己評価は実施されていなかった。

② 今後の方策

・本年度を皮切りに毎年自己評価を実施することで、学校組織としての成長を教職員が意識できるようにし、各教職員のモチベーションの向上に繋げていく。

③ 特記事項

- ・ 特段無し。

## V 今後の課題、取り組み

IVの評価項目については、(2) 学校運営や(3) 教育活動で課題があることを再認識した。特に(3) 教育活動の内、教員の採用関係については解決すべき急務であると認識している。また、学校運営の面では、事業計画の共有などを通じ、マネジメント層の考え方を職員と共有、議論することで、教職員に対してより納得感のある意思決定をしたい。

重点項目であった業界内、コース内での男女差の解消については、短期的に解決できるような問題ではないため、今後も継続していく。男女差の解消により、業界内が多様性に富むことはその業界の発展に通ずるものであり、持続可能な業界を形成するにあたり、必要不可欠であると考えている。